

1. 研究課題名：アジア起源の短寿命気候汚染物質が北極域の環境・気候に及ぼす影響に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属：谷本 浩志  
(国立研究開発法人国立環境研究所 地球環境研究センター)



3. 研究実施期間：平成 27～29 年度

#### 4. 研究の趣旨・概要

近年の北極域における環境・気候変化には世界的に懸念が高まっており、一方で温暖化により北極海航路が開けるなど大きな社会経済的利便性も指摘されている。このような状況で、わが国は北極評議会へのオブザーバー資格を獲得し、北極圏における国際的枠組みづくりに貢献していくための戦略と科学的知見による裏付けが早急に必要とされている。

本研究では、アジア地域から排出される SLCP (Short-Lived Climate Pollutants) と呼ばれる短寿命大気汚染物質が北極域の環境・気候に及ぼす影響評価に関する研究を行う。具体的には、人為起源または自然起源の発生源からの北極への SLCP の長距離輸送とその影響や、グローバルな気候変化に伴う北極域での大気質・気候変化の解析を行う。

これにより、我が国の北極圏に関する環境面での国際貢献の一つとする。

#### 5. 研究項目及び実施体制

- ①人為起源発生源からの北極への SLCP 輸送経路と影響の解析 (国立環境研究所)
- ②自然起源発生源からの北極への SLCP 輸送経路と影響の解析 (海洋研究開発機構)

## 6. 研究のイメージ

アジア起源の短寿命気候汚染物質が北極域の環境・気候に及ぼす影響に関する研究

サブテーマ:

(1) 人為起源発生源からの北極へのSLCP輸送経路と影響の解析(国環研)

(2) 自然起源発生源からの北極へのSLCP輸送経路と影響の解析(海洋機構)

